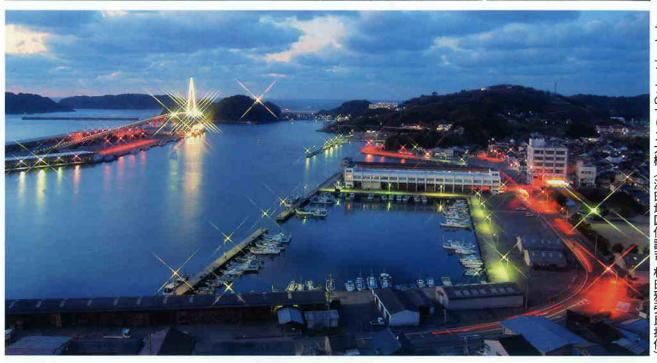


NO.179

(平成25年10月1日発行) 島根県保護司会連合会

《島根更生保護データ》 保護司総数 489人 保護観察事件 182件 生活環境の調整事件 268件 (25,9.1現在)



ライトアップのマリン大橋(浜田地区保護司 杉田雅弘氏提供)



ソーシャル・インクルージョンの社会へ

島根あさひ社会復帰促進センター長 手 塚 文 哉

犯罪者処遇に関しては、これまでのソーシャル・エクスクルージョンからソーシャル・インクルージョンに変化してきており、国だけでなく地方公共団体や地域住民など、社会全体が一丸となって取り組むことが極めて重要であり、刑事施設において、矯正処遇を更に推進していく上で施設周辺住民の理解と協力は欠かせないものであります。

当センターは「地域との共生」を基本方針として、地域社会の理解と支援を得た被収容者の社会復帰を図るための市民参加型の運営を目指しております。

また、昨年7月、政府の犯罪対策閣僚会議が「再犯防止に向けた総合対策」を策定しました。これには、出所後2年以内に再び刑務所に入所する者等の割合を今後10年間で20%以上減少することが目標として掲げられています。

受刑者が再犯を犯す理由には、刑務所内での 教育の在り方、社会環境、家族・友人との関係、貧困等、色々な要素がありますが、施設内 処遇から社会内処遇に速やかに移行できるシス テム作りが必要であると考えております。仕事 を通して人と人とのつながりをつくることを教 える必要があり、中間施設等の設置の必要性を 強く感じております。

ここ数年、刑務所を取り巻く社会内処遇の制度も大きな変化があります。一つは刑務所出所者等の総合的就労支援対策で、ハローワークが入った形での就労支援対策ができました。二つ目は平成21年度以降、厚生労働省の予算で、各都道府県に地域生活定着支援センターが置かれ、刑務所出所者の福祉へのつなぎをコーディネートする機関が生まれました。そして、特別調整によって満期出所者に対しても帰住先を見つけることを行っています。

こうした取組が広まることによって、ソーシャル・インクルージョンの社会が実現できるのではないかと考えています。

地域に根ざし、幅広く、いきいきと展開

- 第63回社会を明るくする運動実施結果から

第60回から本運動の趣旨をわかりやすいものにするために「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」という副題が付されています。

そして行動目標としては

- ① 犯罪や非行をした人たちの立ち直りを支えよう
- ② 犯罪や非行に陥らないように地域で支えよう
- ③ これらの点について、地域社会の理解と協力の輪を広げよう

重点目標としては

「立ち直りを支える取組についての協力の拡大」、「就労・住居等の生活基盤づくりにつながる取組の推進」が定められ、島根県内各地区推進委員会において様々な活動が実施されました。各地区の取り組みについて、一部を写真で紹介します。













余 談

隠岐地区保護司

高橋英康

保護司を拝命して早20数年が経ちました。 当時、若い保護司の誕生として、新聞に掲載された数行の紹介文を同僚が見つけて教えてくれたことを思い出します。あれから当地の環境や他の保護司さんに恵まれてか、担当する事も無く、「研修保護司」として置らず、これまで安穏に過ごしております。

父が長く保護司をしておりましたので、 退任を受けて引き継ぐ形となりました。住 職としてすでに行動制限が多いところに追 討ちをかけるような仕打ちではないかと 思ったものです。

おそらく幼少期からの手に負えない悪が キと呼ばれ、何度も親が謝罪の行脚に出た 記憶が払拭出来ずにいたのでしょう、悟空



の法輪を頭にハメられたようです。

「更生保護」には大学3年 の冬から大変お世話になりま した。宗教家の真髄は社会福

祉の精神にみたりと、大学では社会福祉を 専攻し、卒論では「非行性人格の形成」と いうテーマで挑んでみました。引用、参考 文献として法務省保護局編の機関誌「更生 保護」にどれほど助けられた事でしょう。 研究者の意見は勿論、現場の保護司さんの 生の声も多く、我が意を得たりと多用いた しました。

もし今、少年の担当者となった時、遠くにはなったが熱心に読みあさった経験と多くの研修が彼等の為に役立てる事が出来るのであろうか。そうであって欲しいと祈るばかりですが、本当に望むべくは、これまで同様安穏な地であって欲しい。



平成11年6月、故福山保護司の献身的なご努力により、17名の会員でスタートした海士町更生保護女性会は現在14地区全部に47名の会員を擁する地域住民から認められた組織に成長した。

活動の中心は、社明運動に伴う街頭広報活動と愛の図書寄贈運動の募金集めである。

募金活動は、6月に会員に呼びかけて総会を開催し、この場で募金集めの実施方法について詳細な打ち合わせを行い会員の意識統一を図った上で7月1か月間、地区ごとに全世帯を訪問し募金活動を行っている。募金活動に先駆けて、町行政の理解を得て、募金の趣意書と協力依頼を全戸に回覧でお願いすると共に、防災行政無線による2回の放送を行い、会員の募金集めが円滑に実施できるように配慮している。

このような徹底した募金活動によって近年の募金の実績は全世帯の75%約800世帯

徹底した募金活動の展開

海士地区更生保護女性会 会長 上 田 正 子

の方から57万円余の浄財が集まっている。 町内の保育園から小学校2校、中学校、高校の5校へ各7万円全体で35万円を愛の図 書購入資金として寄贈していて学校等から 大いに感謝されている。又更女連盟へも相応の送金を行っている。

募金活動が終了した後、町広報に募金の 実績とお礼、引き続き協力依頼の記事を掲 載している。会員一同これからも頑張るも のと思う。



保護局長来庁される

去る7月9日、法務省保護局の齊藤雄彦(さいと う・ゆうひこ) 保護局長が松江保護観察所、改築と なった島根更生保護会を視察。その後、県庁、報道機 関等を訪問され、更生保護における新規施策等への-層の理解と協力を要請されました(下記)。

保護局長の来松は、平成16年以来のことです。

齊藤

雄彦さん

れ、罪を犯したり、世町の山陰中央新報社 走ったりした人の再犯防止 地域社会の中で 央新報社を訪 非行に 割以上減らす目標を決定。 戻る割合を、 年院を出た人が2年以内に 議は昨年7月、刑務所や少 このため、 犯罪対策閣僚会 10年以内に2

法務省保護局長

局長(58)が9日、 法務省保護局の齊藤雄彦 、松江市殿

意を語った。

犯の件数は減っていない。 減少傾向にあるものの、再 な社会をつくりたい と決

受け入れてもらえないと立 ち直れない」と述べ、 が不可欠と力説。「地域で 司や更生保護女性会といっ 生には地域で奮闘する保護 挙げて取り組む」と話す。 今年6月には再犯率の 度の導入が決まり、 猶予して更生につなげる制 たボランティアや更生保護 化という課題はあるが、更 人と人のつながりの希薄 雇用主などとの連携

> 山陰中央新報 平成25年7月12日(金)付け

島根県更生保護女性連盟会長の 交代について

平成25年7月4日に開催された平成25年度島根県更 生保護女性連盟理事会において役員改選が行われ、新 会長に鐘築章恵氏(出雲)が選任されました。

更生保護法人島根更生保護会理事長の 交代について

平成25年6月16日付で、更生保護法人島根更生保護 会理事長に吉長義親氏が就任されました。

前号訂正

平成25年7月1日発行の「機関誌島根更生保 護」No.178号(6ページ)の退任保護司 福森 直(浜田)と記してあるのは、森福 直(浜田) の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

ご案内

敬

弔

平成25年度 島根県更生保護事業関係者 題彰式典のご案内

とき 平成25年11月20日(水) 午後1時20分~3時

ところ 松江市総合福祉センター4階 (松江市千鳥町70) TEL (0852) 31-7031

> 下記の方がご逝去されました。ご功績を偲 び謹んで哀悼の意を表します。

元保護司 來 海 正 和(出雲)

(平成25年6月17日死亡)

石 倉 恒 巳(松江) 元保護司

(平成25年6月26日死亡)

保護司 井 昭 雄(松江)

(平成25年7月8日死亡)

藤 益 夫(出雲) 元保護司

(平成25年7月21日死亡)

松 大 祐(松江) 保護司

(平成25年7月24日死亡)

川 金 市(出雲) 元保護司

(平成25年8月5日死亡)

元保護司 櫻 井 元 昭(松江)

(平成25年8月8日死亡)

元保護司 田 喜美子(松江)

(平成25年8月31日死亡)

ご支援ありがとうございました

(島根保護観察協会)

敬称略

是 津 輝 和 和 田良

of colocios paragraphs of a colocios of a

編集後記

7月末と8月末の記録的な豪雨により、被災され た皆様には謹んでお見舞い申し上げます。

機関誌「更生保護」10月号(179号)を真夏日の続 く暑い中で編集して、お届けする運びとなりました。 ご寄稿いただきました皆様には厚くお礼申し上げ ます。